

浄水場建設地の売買代金についてさくら市議会は、「当時の町長＝管理者に特段の錯誤があったとは認められない」ので責任を問わないとの議決をしました。1億2千万円にのぼる賠償請求権の放棄です。市の『議会だより』を何度読んでみても、私たち市民の感覚からは遠く外れた議決でした。

東京高裁はこの議決を、三権分立の趣旨に反するもので「違法無効」と断じました。

議会と議員に求められているのは「**市民のまっとうな利益が最優先される、限りなく公平な**」判断です。くすのきは過去の2期約8年、そう信じて採決に臨んできました。この信念に今も変わりはありません。

子ども、 教育

子どもは私たちの宝です。家族、経済状況、心身の障害などさまざまな違いを持った子ども誰もが、安心して成長していきける環境の整備が急務です。教育投資こそが本当の公共投資。インターネットによる被害を始め、子どもが犯罪に巻き込まれないための防止教育、自分の身は自分で守れる安全教育を学校現場で徹底させます。

在宅介護 システム

長年苦勞して今の日本社会をつくってきた高齢者の生活を支えるため、在宅介護の24時間サポートシステムの早期実現を訴えます。施設介護の充実も引き続き重要な課題です。

男女共同 参画

市の審議会や検討委員会、そして、これから進むべき道、選択すべき方向性を議論する場に、一般市民が男女ともにもっと参画していく必要があります。家庭で家事・育児の責任と実践の半分を担当してきた1人として、強く感じます。

太陽光 発電・売電

今では甲子園スタンドの屋根上や高速道路サービスエリアの建物にもあるなど、当たり前の風景です。夜間の消費電力がゼロに近い学校などにこの設備を順次導入するよう、議会で訴えてから10年以上経ちました。未来を先取りする政策が子どもの夢を育みます。環境教育のみならず、自然災害時のライフライン確保という危機管理の観点からも、さくら市はもっと真剣に検討すべきです。

初心にかえって再出発です。
失われた議会の信頼を取り戻すために。

市民に“見える”政治を実行します。
自主編集の議会だよりで双方向コミュニケーションを目指します。紙面を架け橋に、市のこと、日本の将来を語り合い、一緒に政策提言していきましょう。実現していきましょう。

市民の声こそが議会と市政を変える起爆剤です。

